

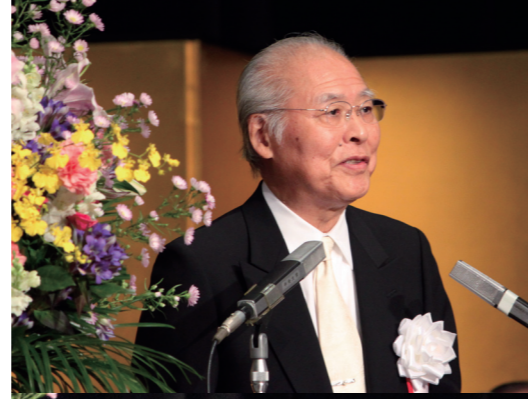
第24回中央大学ホームカミングデー ～白門学員祭～開催報告

祝・創立130周年！
輝く未来の創造に向け、団結力を発揮

澄み渡る青空が広がった2015年10月25日(日)、「第24回中央大学ホームカミングデー - 白門学員祭 - 」が多摩キャンパスにて開催されました。7月に130周年を迎えた今年は、「創立130周年を起点に輝く未来を創造しよう」をコンセプトとして開催されました。この「記念すべき年を祝おう」と、キャンパスには昨年の来場者数を大きく上回る約4,400名が来場し、卒業生やその家族、在学生、地域住民の皆さまが年代、大学間の垣根を越えて交流を深めました。

開会式の挨拶では、深澤武久理事長、酒井正三郎総長・学長が10年後の140周年に向けた計画について触れ、グローバル化へのさらなる推進や、今年、合格者数1位に輝いた司法試験など難関国家試験合格に対する支援、第92回箱根駅伝への切符を手にした陸上競技部をはじめとするスポーツ部門の強化といった内容を紹介。本学の輝かしい未来を築くため、学員たちに応援を求めました。また、130周年を記念して招かれた遠藤利明東京オリンピック・パラリンピック大臣は、「皆で力を併せ、リーダーシップと誇りを持って頑張ってください！」とエールを贈りました。

続いて「創立130周年 中央大学の未来へ～私の提言～」をテーマにした論文コンテストの受賞者を表彰。恒例の親子三代表彰式では例年の倍にあたる15組が参加しました。開会式のラストを盛大に飾ったのは、「中央の絆」での新年次支部結成宣言。会場に集った69支部が団旗を掲げ、応援部が力強く壇上を盛り上げるなか、白門会2015年次支部の支部旗が贈呈されました。



オリンピックのキーパーソンたちが語る 2020年の東京と中央大学の結びつき

大学創設の節目となった今年は、130周年特別企画を軸に約40のイベントが実施されました。そのなかでとくに人気を博したのが、東京オリンピック・パラリンピック記念企画の講演と対談でした。スポーツに力を入れている本学は今日までに30名のメダリストを輩出しており、この数字は大学としてトップクラスを誇ります。講演では、「中央大学とオリンピック」をテーマに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のキーパーソンとして活躍する本学卒業生たちを招き、2つの講演を行いました。登壇した遠藤大臣、日本バレーボール協会の木村憲治会長、東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会組織委員会の秋山俊行副会長と雑賀真総務局長は、オリンピックの現状や本学との関係について熱弁。対談「東京が動く～白門力で東京再生を～」では、河川・水文研究室の山田正教授と環境デザイン研究室の石川幹子教授が、新国立競技場の問題に絡めながら水と緑を回復するプロジェクトについて意見を交わしました。こうした本学ならではの企画に多くの聴講者が集まり、好評を博しました。

